

今、耐えて為すべきこと

令和5年度になって、早くも4ヶ月となり、間もなく年度の三分の一の日々が経過しようとしています。にいがたに公営動物園を実現するために、私達は今何をすべきなのでしょう。

現状を見ると県民からの期待感が薄らぎ見放され、子供達からさえ日々忘れ去れているようです。何故でしょうか。私達の目的と行動が県民の願いと異なってしまったのでしょうか。いや、そんなことはありません。大多数県民の願いは今も10年前も変わるはずがありません。変わっておりません。プロジェクトの進展が当初私達が想定したよりもあまりに長期間かかっているため、県民の関心が追いつかなくなり、いつかは実現できる夢として期待出来ない、諦めの心境になっているのかもしれない。ならば会の運動の仕方に問題があったのでしょうか。これまでもメンバー有志で話し合い、智恵を出し合い、協力してやってきたつもりです。役員会でも常に動向を報告し、指導、提言を求めてきました。

この間、署名の20万人余の獲得や大規模県民イベント〈動物園をつくろう！新潟2016〉（平成28年9月 江南区文化会館）を開催し、知事、新潟市長に幾度も要望を重ねてきましたが、総論に理解を得られても、具体的な回答はありませんでした。初期の段階では、市からその頃竣工した動物ファーム〈鳥屋野地区〉を引き合いに出され「新潟市に2カ所の動物園はいらない。」と言われ、啞然といたしました。令和元年になった頃から県・市から財政状況の逼迫が声高に叫ばれ始め、現在に至っています。こうした状況の下で更に新型コロナウイルスの流布があり、最近になり漸く落ち着きざしを見せています。

1 役員会の開催（通常総会開催の延期）

関係者では、昨年度の通常総会の開催の評価が芳しくありません。講演会を併催し一般市民からの多数の参加者を期待したにも拘わらず、総参加者は15名と少なく意見交換も低調であった故です。でも、会員や関係者への通知の徹底は勿論、A4チラシを作成し配布し、小版ながら初の新潟日報での広告も試みました。講演会も中身の濃い有意なものとなったと自負しております。思い当たる周知手段は全て尽くしたと思っていますが、批判を受け今年度も再挑戦しても成果の向上に自信が持てません。どこに問題があるのか原点に立ち戻り話し合う必要があるのではないかとということで、通常総会を当面見送り役員会を代わりに開催して4年度決算と5年度収支を承認いただくことにしています。

2 組織業務の分担と体制の強化

絶対的マンパワー不足に起因するとはいえ、これまで会の事務局体制は人数が極めて少なく、協議の実態も形を為さないため組織を支える機関に相応しくないのでは指摘されてきました。

マンパワーはこれまでの間減少することはあっても、新規メンバーの加入は1～3名と少なく、そ

れ故に論調に幅が生まれず固定しがちでした。マンパワー不足では組織に活力は生まれません。少人数だけで何もかも決めてしまうのではなく、必要な業務を整理し、グループ化して担当メンバーに割り振り業務を担っていくことが望ましいと思われます。それにはメンバーの絶対数を増やす必要があることから、まず人材の補充に努めなければなりません。これには最近活動から離脱している元メンバーの復帰への呼びかけをはじめ、新たに動物園建設に関心を抱く若い人達に参加を呼びかけたい。なお、現在の役員、顧問からも本人の意向を確認しながら実動隊メンバーとして参加を御願ひする必要が有ると考えられます。

現在検討されている部会（案）

部名称	担当する業務	
企画経営部	取組の戦略ややり方を協議し、各部との連絡調整を図る。	
総務推進部	渉外	主に新潟市・県・マスコミ等の外部機関との交渉を担当する。
	動物園構想の立案	他県の動物園視察や学識経験者の講演・論調を元にした学習会等を通して、目指す動物園の構想を立案する。
	候補地選定・折衝	候補地の検討、選定及び地元民との折衝を担当する。
広報部	季刊レポート（会報）、ホームページ（SNS）、メディア活用を通じて、会員・賛同団体・県民・新潟市民の関心を高める活動を担当する。署名や実動できる会員を集めるための活動を企画し、推進する。	
行事部	講演会や県外動物園の視察等を企画、運営する。	
経理部	会費や資金管理を総合的に担当する。	

3 県民への呼びかけ、広報の強化

県民が関心を抱くプロジェクトを成就～事業化するにしろ、それが永く継続して運営していくためにも、普段から県民に会の考えを伝え、情報を発信しながら、同時に意見提供を求め県民の世論動向を把握しながら進めることが重要です。しかし、県民が欲する情報をいかなる手段で発信するか考えたとき、マスコミからの伝達が期待できない現状において、常に不特定多数の人達と交流可能なインターネット（SNS）による手法に拠らざるを得ないと判断されます。現在休止状態にあるホームページを再構築し、それを通して県民との意思疎通を図るのが最善の策になりそうです。

4 ときエア利用による動物園視察会への参加呼びかけ

新潟空港を拠点にして北海道（丘珠空港）～神戸空港など全国の主要空港との間に格安航空路線網を整備しようと「ときエア」が設立され、8月を目前に就航する計画が進んでいます。

県民の期待も高く注目されていることから、この機会を利用して会の有志で各地の動物園の視察を

したらその話題性にマスコミは注目するのではないかと思います。

会員以外の方からにも参加を募る予定です。航空運賃が未発表のため、必要経費は未定です。

※ 当件についての照会先 〈担当役員〉 齋藤京弥 090-8807-0267

5 民間資金活用策の検討

本県で公営動物園の設置構想が進まないのはその事業主体と期待されている県・新潟市の財政の悪化があります。

県を見ますと財政再建策に着手以来4年目となり、行動計画に沿った再建計画は改善されていますが、借金返済のピークは8年後も続くと言われていて、この間は新潟市とともに動物園建設へと方針の展開は難しいと思われます。

プロジェクト実現に資金確保の見通しが付かないのは致命的欠陥となりますので、その打開策は政府も支援している民間企業から参加してもらい、その資金を事業資金として利活用する方法の採択しかありません。資金力のある民間企業から30～40年の長期的視野で参画してもらえないかその可能性を探ってみたいと思います。ただ、新潟でこのノウハウを持ち参画に期待できる企業が少ないと思われるため、総力を挙げて首都圏にも広げ協力を求めなければならなりません。

資金確保の見通しがついた段階でようやく県・新潟市から計画を聞いてもらえ、事業の可否について判断してもらえるものと思われます。

最近の活動状況

- 4. 13 令和4年度会計決算の監査を受検
- 5. 15 事務局メンバー有志が集まり、情報交換
- 5. 27 平澤副会長、事務局長他で渡辺惇夫顧問を訪問
- 6. 17 広報用チラシ（A4）を作成
- 6. 18 市民活動支援センター主催の「ルフル de ニコットランド」に参加。広報、署名活動に参加
- 6. 22 市民活動支援センターのルフル de ニコットランドに参加
- 6. 22 事務局員有志で小林会長を訪ね、情報交換